

が大切 (エキノコックス対策)



この幼虫が寄生したネズミを食べたキツネの腸の中では成虫に…。自然界ではその循環を繰り返していました。このようにエキノコックスはキツネとネズミの間で「食べる」「食べられる」という循環を続けていくうちには人には問題はありませんでした。しかし、エキノコックスを持つているキツネに触れたり、糞便に汚染された山菜や沢水をそのまま口にすると、肝臓に幼虫が寄生してエキノコックス症を引き起こすことがあります。

エキノコックスが主に肝臓に寄生して自覚症状が出るまで数年から十数年を要します。進行が大変遅いという特徴がある病気なので自覚症状が出る

この病気は何よりも早期に発見して早めに治療をすることが大切で、そうすることで完全に治すことができると言

エキノコックスとは、キツネなどの腸の中にいる寄生虫の名前のことで、これによって引き起こされる感染症がエキノコックス症という病気です。この病気は、キツネなどの排泄物に混じった虫卵が人間の口から体内に入り、幼虫と

なって肝臓に寄生し肝機能障害などを起こす人畜共通感染症のひとつと言われています。(感染経路は11ページの図を参照)

エキノコックスの成虫は、キツネの腸に寄生しそこで卵を産み、その虫卵が糞便と共に排泄。それをネズミが木の芽や草の実などと一緒に食べ、体内で卵がかえり幼虫になり、肝臓に寄生します。

早期発見・早期治療を

エキノコックスの幼虫が口から入っても人は感染しません。人間同士で伝染することでも、エキノコックス症にかかっている家畜や野ネズミから移ることもありません。人がエキノコックス症を起こす原因となるのは虫卵が口から入ったときだけです。すなわち、虫卵を体内に入れないことが最良の対策と言えます。

これらの症状は、肝機能障害によって起こるものです。エキノコックス症の治療方法には薬による治療がありますが、完治するには病巣が大きくなる段階で手術により患部を切り取るしかないとのことです。

エキノコックスとは

山菜採りやハイキングなど、野山に入る機会が増えます。鳥や野生の小動物との出会い、可憐な草花を見ることが出来る山は自然の宝庫です。身近に感じ気軽に散策する野山ですが、病を引き起こす危険性もたくさんあり、エキノコックス症という病気もそのひとつです。この病気は正しい知識を身につけ、適切に対処していれば予防できると言われていています。旧早来町は昭和61年に旧追分町は平成2年に「エキノコックス症対策重点地域」に指定され、現在は、北海道全域が対象になっています。この時期に改めて考えてみましょう。

伝染しない感染症

エキノコックスの幼虫が口から入っても人は感染しません。人間同士で伝染することでも、エキノコックス症にかかっている家畜や野ネズミから移ることもありません。人がエキノコックス症を起こす原因となるのは虫卵が口から入ったときだけです。すなわち、虫卵を体内に入れないことが最良の対策と言えます。



成虫が寄生する動物
キツネ、犬など
幼虫が寄生する動物
野ネズミ、人、豚など

るころにはかなり悪化しているとのこと。町では5年ごとに住民を対象とした検査を行なっていますが、エキノコックス症にかかると次のような症状が表われます。

主な症状

- 疲れやすい
- 上腹部などに不快感
- 上腹部の膨満感
- 黄疸(おうだん)

これら症状は、肝機能障害によって起こるものです。

エキノコックス症の治療方法には薬による治療がありますが、完治するには病巣が大きくなる段階で手術により患部を切り取るしかないとのことです。

この病気は何よりも早期に発見して早めに治療をすることが大切で、そうすることで完全に治すことができると言